

努力の实在

UFOや宇宙人を迎へる準備

www.jomaca.join-us.jp/jomaca_mukaeru.pdf

二〇二一年五月十七日

JOMON^{細文}あか데미校長 山田 学^{まなぶ} ©

(旧かなの良さもご提唱)

物理学再考

わたしは、一九八一年に、東京大学の工学部を、中退しました。今までの科学や技術に、疑問を感じたからです。

でも、善かつたと、感じます。

二〇二〇年代に、UFOや宇宙人のことが、公開される。そんな予感も、いたします。

すると、アインシュタインはじめ、物理学を、再考せざるをえなくなる…

わたしは、意図せず、結果として、UFOや宇宙人を迎へる準備、これをしてゐた、やうです。

アインシュタインの、相対性理論。あるいは、これは、20世紀の、〈物理学風の神話〉として、必然だったのかもしれない。でも、UFOや宇宙人の、現実には、耐へられぬ、〈神話〉でせう。

相対性理論の解説を、よくよく、読むと、「光速不変の原理」は、仮定です。あたかも、神への信仰、のやうなものです。いくつかの実験により、それが証明されたと、されてゐる。その「証明」は、厳密でせうか。

なにより、秒速30万キロメートルとされる、光速。宇宙の時間と空間の、悠久壮大さに、比べれば、とても遅い！のです。とてもとても遠い星から、UFOや宇宙人が、飛来してゐる。その現実が、発覚すれば、地球人の20世紀の、仮定・思ひ込み・信仰は、とても狭い思考だったと、わかる。地球人は、「光速不変の原理」から、解脱するでせう。

物理学の歴史において、相対性理論が、なぜ、登場したか。また、要点の、「ローレンツ変換式」にもとづく、より細かい議論を、お望みの方のためには、わたしが、次の論文を、ご用意してをります。

JOMONあか데미サイトwww.jomaca.join-us.jp 「理念集」画面内

「物理学再考」(末尾註参照)

有益な主張 www.jomaca.join-us.jp/jomaca_butsumi_fine.pdf

本文 www.jomaca.join-us.jp/jomaca_butsumi.pdf

本質は、力学と電磁気学を統一する、といふ課題があつた。電磁気学の立場から、力学を、止揚する（内容は保存し、形式は否定する）ことが、正解だつた。正反対に、アインシュタインは、力学の立場から、電磁気学を、封じ込めた。ので、さまざまな、〈場〉fieldについての議論が、不可能となつた。

そして、〈場〉について、未知の部分を、解明することによつてこそ、21世紀の技術革命の可能性、これがあります。

相対性理論にて、光速の現実でなく、光速の数値のみ、不変とするため、暗黙に、速さの単位を、変化させてゐる。実は、単純すぎる、すりかへが、一見、難解な、数式や解説に、隠されてゐました。しかも、相対性理論を、承認できぬ者は、低脳である時まで、強迫されました。

現実論としての数学を

数学の権威も、とくに、無限の問題、これを中心として、キリスト教神学、それなどと、闘争しない、理論となつてゐます。数学全体を、現実論とする、意思がありません。

数学史上における、諸権威。諸先生の、具体論における実力は、もちろん、優れてゐます。しかし、その中枢概念を、反省してみると、時代の限界、といふこともあります。

UFOや宇宙人を迎へる準備、として、わたしは、次の論文も、ご用意してをります。

JOMONあかでみいサイト「理念集」画面内

「現実論としての数学を」

有益さ主張 www.jomaca.join-us.jp/jomaca_sugaku_fine.pdf

本文 www.jomaca.join-us.jp/jomaca_sugaku.pdf

今の「抽象数学」の権威に、遠慮しつつ、現場のさまざまな、未知に対応せねばならぬ、工学系の研究者。かれらの、経験的な方法を、むしろ、正々堂々と論理化していく。さういふ、逆転の、数学の基礎の論、です。

生物系と個人

客体的から、主体的へ。物理。生理。認識の理。17世紀のデカルト以降の、科学は、生理の本質論や、認識の理の本質論が、ありません。物理の本質論も、中途半端です。

UFOや宇宙人を迎へる準備。それは、地球人として、どう、健康平和に、生きるか。この課題も、含みます。物理学と、生理学と、認識学と、さらに道徳学の、統一も必要です。

わたしが、これを試みた、次の論文も、ご用意してをります。
JOMONあかでみいサイト「理念集」画面内
「生物系と個人」

有益さ主張 www.jomaca.join-us.jp/jomaca_seibutsukei_fine.pdf
本文 www.jomaca.join-us.jp/jomaca_seibutsukei.pdf
生物系の進化から、個人の生活まで。綜合理論です。

地球人の世界観を、健康平和理念へ、どう編集してゆくか。地球人の遺伝模様を、地球にて、どう棲みわけるか。

資産増殖や、国家や、架空論から、解脱する。各人の自身の体内の快。これを、自覚的に追求する、認識と生活を、発達させる。
それらのための、綜合理論です。

原子転換論

地球人が、核分裂を、知ったから、原発が危険だ： わたしは、さういふご意見に、正反対です。

宇宙における、核融合や核分裂、つまり、原子転換の、全体像と本質。地球人はまだ、それを、知らなさすぎる。だからこそ、一知半解の、核理論による、実行の原発が、危険なのです。知りすぎたのでなく、知らなさすぎる。

実は、この無知を、助長してゐるのも、まさに先の、相対性理論による、思考「統制」なのです。

その思考「統制」とは、高温高圧による、強引な機械的発想でないと、原子転換は無い、といふものです。

しかし、超微細な動的立体模様や、精妙な共鳴に、着目する。むしろ、低温低圧にて、自然天然的発想をすると、原子転換が有る、のではないか。

さて、フランスのC.J.ケルヴラン先生が、かう、言ひ出した。

人間生活や、地球の生物系や、無生物系にて、むしろ、常温にて、核融合や核分裂、つまり、原子転換が、多様に、常在するのではないか。

ケルヴラン先生は、ひろく深い、周到な観察や実験により、多くの状況証拠を、提出されました。ケルヴラン先生の推理を、日本の桜沢如^{ゆきかず}一先生や、千島喜久男先生らも、応援しました。

わたしも、ケルヴラン先生の推理を、総合的に、発達させました。それを記した、次の論文も、ご用意してをります。

JOMONあかでみいサイト「理念集」画面内
「原子転換論」

有益さ主張 www.jomaca.join-us.jp/jomaca_tenkan_fine.pdf

UFOや宇宙人は、とくに、地球人による、核融合や核分裂の扱ひに、その発達ぐあひに、関心があるやうです。

TQ技術の理解へ

UFOや宇宙人にとり、ヨガやアジア医療のやうなことは、むしろ、常識のやうです。それらを否定しがちな、今の科学の権威のほうが、問題となる、といふことです。

① 西欧近・現代の、物理学や生理学。これらもまだ、一面的ではないのか。
② たとへば、縄文人が、土器や土偶に表明したと考へられる、生理感覚ないし物理感覚など。①と②の区別と連関を、じっくり、じっくり、説明していつてこそ、はじめて、全面的な現実認識の、生理学ないし物理学。これが、将来において、確立するのではないか。かういふ問ひかけを、抑制できぬのが、わたしが、実父から継いだある技術の、現場です。わたしどものサイトを、JOMON^{縄文}あかでみいとする、ゆゑんです。

ある技術とは、TQ技術。(TとQは、あることの記念であり、本質の意味はない。)〈氣功の工業化〉です。「氣功師が、物質に、氣を込める過程」。それには、認識の理の面と、生理の面と、物理の面が、ある。父は偶然、この物理の面のみを抽出する、〈ある機械〉を、発明した。氣功師の、天性も、修業も、必要とせず、氣功師以上のことが、可能。わりと、短時間、低費用。〈薬石^{やくせき}の人工生産〉でもある。

これを、今までの物理学や生理学に、調和させるため、父とわたしは、ふたつの新しい概念を、提唱いたします。

① 〈酵素活性場^は〉と呼ぶ、第五の〈場〉。相対性理論が、思索を抑圧してある、分野です。

② 〈生命促進性〉と呼ぶ、まうひとつの物性。

人間や他生物への、看護。そのため、物質の〈生命促進性〉を、〈ある機械〉により、加工する。(氣を込める過程に同じ。)その物質を、人間や他生物のゐる空間に、適正に配置し、空間の〈酵素活性場〉を、調整する。さういふ、看護の技術です。

健康。住居。食物流通。農業。環境。個人から、地球までの、応用。西暦二一〇〇年までも、応用開発が、予想されます。西洋と東洋の接点にある、生理的物理の、根幹技術です。

わがTQ技術の現場は、未知のことも多い。思索の方向を、整理するため、わたしは、次の論文も、ご用意してをります。

JOMONあかでみいサイト「理念集」画面内

「TQ技術の理解へ」

有益さ主張 www.jomaca.join-us.jp/jomaca_rikai_fine.pdf

本文 www.jomaca.join-us.jp/jomaca_rikai.pdf

最終目標は、西洋の〈場〉の概念と、東洋の〈陰性陽性〉の表象の、区別と連関の、解明です。

縄文人など、原始人は、「こちらの空間は、好い。そちらの空間は、好くない。」といふ、感性が鋭敏。アニミズムと呼ばれる、ものでせうか。わたしどもは、わたしどもが提唱する、新概念を用ゐ、原始人のこの感性を、〈酵素活性化場の予感〉と、規定してをります。

「TQ技術の理解へ」の冒頭は、わたしが創始する、〈まうひとつの全面的な物理学〉の、ご紹介です。

ところで、UFOは、その機体の物性にこそ、重要な秘密が、あるやうです。わが〈生命促進性〉と呼ぶ、物性の新概念こそ、その方面の研究の、序の口をなすものでせうか。

(末尾註) 本稿にてご紹介する、わたしの5つの論文は、専門家向けです。

UFOや宇宙人を迎へる準備、これこそが、すぐにも重要と思ふ、柔軟な思考の、専門家向けです。

一般人には、難解ですが、5つの論文の「有益さ主張」のみでも、ご覧になり、〈準備の努力〉が実在してゐることを、お認めいただければ、幸ひです。

また、わたしの知らぬところにて、わたしとは別の努力あれば、ぜひ、お報せください。